



「怒る」と「叱る」の違いとは

校長 伊藤 武夫

「怒る」と「叱る」は同じような意味合いで使われていますが、実は全く異なる性質のものだといわれています。「怒る」の意味は、不満や不快なことがあって我慢できない気持ちを表す。別の言葉で言えば「腹を立てる・いかる」。「叱る」の意味は、目下の相手の言行に対して良くない点を指摘すること。別の言葉で言えば「とがめる」ということ。

さて、「怒る」という行為は、例えば大人と子どもで考えてみると、大人が子どもを思い通りにしたいと考えていることの表れなのだそうです。したがって、期待した成果が出せないと腹が立ち、怒りの感情をぶつけたくなるのだそうです。また、自分の気持ち(気分)で行動しているので、冷静さを失いがちです。そのために、子どもの良い所が見えにくい(見ようとしない)ので、子どもを褒めるといことがなかなかできないのです。子どもも「大人に認められよう」という気持ちは起きにくくなります。

下表は「怒る」と「叱る」の違いを比較したものです。私たち大人(教師や保護者)は子どもを認め励ますと同時に、時に「叱れる」存在でありたいものです。こうした関係は子ども同士でもあることでしょうし、家族内や私たちが言えば職員関係にもあてはまります。特に人間関係づくりが大事とされる昨今、互いを認め合い支え合える雰囲気とともに、相手のために叱れる勇気(同時に叱られることの受容さ)をもつことも必要なのではないのでしょうか。

怒る (angry)	叱る (scold)
高圧的、高飛車、感情的	理性的、冷静
自分の感情をあらわにする(八つ当たり)	相手のことを考える(思いやり)
自己中心的な気持ちが出発点	相手に対する気持ちが出発点
画一的なとらえ方	個性を大切にしている考え方
場当たりの、その場の雰囲気次第	目的、必要性をもっている
厳しい言葉を投げるだけ	いけなかった理由を指摘する
思考力、判断力を鈍らせる	考えさせる場、時間を与える
敵意、憎悪が感じられる	愛情が感じられる
ストレス発散	相手の気持ちに寄り添う
自分の感情を爆発させた状態	自分の心に余裕がある状態

スキー冬季総体：近畿・全国大会結果

2年 涌井さん

先月行われた県大会(ジャイアントスローム)で3位に入賞し、近畿(兵庫：奥神鍋)・全国(新潟：苗場)両大会への出場権を獲得し(長浜市内で両大会への出場者は涌井さん1人)、昨年以上の成績をと果敢に挑んでくれました。1月21日に行われた近畿大会は8位(42名中)という好成績を収め、続く全国大会(2月5,6日)ではスロームは2回目に進むことができませんでしたが、ジャイアントスロームは70位(200名中)と健闘してくれました。

全国の壁はまだ厚く、充実した滑りはできなかったようですが、これまでの厳しい練習やトレーニングを積み重ねてきた成果は、必ず今後につながると思います。大変よく頑張ってくれました。



文部科学大臣旗争奪 彩の国全国中学生空手道選抜大会出場

2年 北川さん

来月の28日(木)～30日(土)、埼玉県立武道館で行われる空手道の全国大会に、2年連続出場が決まりました。空手道は組手競技と形競技があり、北川さんは組手競技に出場します。涌井さんに続いて全国の舞台での健闘を祈ります。

学校評価:保護者アンケートの結果より

* アンケート回収率 81.4%

[4…そう思う 3…ややそう思う 2…あまりそうは思わない 1…そう思わない]

(4段階評価の値は%表示)

No.	評価項目	4	3	2	1
1	「自ら考え正しく判断し、心豊かでたくましく生きる生徒」を育成している。	17.0	72.8	9.8	0.4
2	将来の進路や生き方について適切に指導している。	11.3	67.4	19.2	0.9
3	家庭や地域との連携や開かれた学校作りを大切にしている。	23.0	69.2	7.6	0.9
4	学校行事は子どもの成長につながっている。	52.4	46.4	0.9	0.9
5	生徒会活動は活発である。	20.7	68.3	9.4	0.9
6	学習指導は丁寧でわかりやすい。	6.3	64.7	24.1	4.5
7	安全指導は適切である。	16.0	66.1	14.3	4.0
8	生徒指導は適切で、善悪のけじめ、規律などの指導ができています。	8.1	71.0	18.3	1.8
9	部活動は子どもの成長にプラスになっている。	41.8	46.4	8.5	3.6
10	道徳性を大切にし、いじめ・暴力のない学校、学級作りに励んでいる。	11.2	71.4	15.6	1.8
11	子どもは楽しく学校に通っている。	50.2	41.5	6.7	2.2
12	「いのち」や「人権」を大切に生活している。	28.6	63.4	7.1	0.9
13	子どもは「挨拶」「時間を守る」などの基本的生活習慣が身についている。	24.2	57.1	15.6	4.0
14	家庭学習の習慣が身についている。	18.9	42.4	29.0	10.7
15	教師は親しみやすく、指導に熱心である。	17.9	64.3	14.3	3.6
16	教師は子どものことについて保護者に適切に対応している。	21.4	64.7	12.5	1.3
17	教師は保護者に対する言葉遣い、電話対応、服装が適切である。	37.8	57.6	4.5	0.4
18	学年通信、学級通信、広報などは、学校や子どもを知る上で役立っている。	35.3	56.7	6.7	1.3
19	授業参観や行事など、できるだけ行きたい。	36.0	51.3	11.2	1.8
20	土曜日の授業は、生徒にプラスになっている。	20.6	43.3	25.0	10.7

保護者の皆様、アンケートに多数ご協力いただきありがとうございました。寄せられたアンケートを全校の数値としてまとめた結果、上記のようになりましたので報告します。

まず、多くの項目が肯定評価の中、3学年とも共通している本校の重点課題は「学習面」にあることがわかりました。特に、評価項目6の「学習指導の丁寧さ・わかりやすさ」・14の「家庭学習の習慣」等が他の項目に比べ、評価段階1、2の数値が高いです。また、20の「土曜授業」の意義に関しても否定的な意見が多く寄せられていました。授業や学習面に関してですが、校内研究では次の事柄を中心に取組を進めてきました。一つは生徒の学力向上・思考力向上のための授業改善や工夫についてです。もう一つは特別支援教育の視点に立った授業づくりです。また、確かな学力の定着に向けて、その基礎となる落ち着いた授業や学習環境(教室環境)の整備にも力を入れてきました。効果の上がっている面もありますので、今後も学力向上に向けての取組を継続していきたいと考えています。また今後は家庭学習についても具体的に何が課題となっているのかを調査し、家庭との連携も大事にしながら、学習内容の検討をしていきたいと思っております。

次に、安全指導については、地域や保護者の評価は両面あり、「登下校の通学マナー」が良いという方がおられる反面、厳しいご意見やご指摘をいただく方もあります。いずれにしてもノーヘルや多列並進等、いろんな場面で指導を繰り返していますが改善しない面もあります。「命」に関わる問題ですので、地域でも注意や指導、声かけ等の協力をお願いしたいと思います。通学面は決して学校だけの問題ではありません。地域や保護者の危機意識、協力体制なくしては改善されませんのでご理解・ご協力ください。

最後に、土曜授業については長浜市の教育施策の一つとして試行がなされてきました。次年度は市としても実施については規模を縮小する方向で進んでいます。この土曜授業の在り方は施策としてスタートした頃に比べ、方向性がずれてきていることもあるからです。次年度の年間行事計画を作成するにあたり、他校との情報交換のもと、一考していきたいと思っております。また、それに代わる学力向上策が市から示されるものと思われまます。

全般的にはほとんどの項目で8割を超える肯定率(4段階評価の4と3を合わせた%)を示しています。学校ではこうした保護者の皆さんの評価に加え、教職員や生徒の学校評価、学校運営協議会委員の方々のご意見等をもとに、次年度に向けて継続すべき事柄や改善すべき事柄等を整理していきたいと思っております。今後も本校の教育活動にご支援・ご協力の程、よろしく申し上げます。

2月後半～3月の主な行事予定

2 / 22 (金)	3年学年末テスト-1-	3 / 13 (水)	県立高校入試合格発表
25 (月)	3年学年末テスト-2-	19 (火)	県立高校2次選抜入試
28 (木)	1, 2年学年末テスト-1-	20 (水)	新入生説明会 小中連絡会
3 / 1 (金)	1, 2年学年末テスト-2-	22 (金)	修了式 県立高校2次選抜発表
6 (水)	県立高校一般入試	29 (金)	離任式
11 (月)	卒業生同窓会入会式		
12 (火)	卒業証書授与式		

※ホームページを随時更新しています。
ぜひご覧ください!